

第五 行持報恩

此この發ほつ菩ぼ提だい心しん、多おほくは南なん閻えん浮ぶの身にん人しんに發ほつ心しんすべ
きなり、今いま是かくの如ごとくの因いん縁ねんあり、願がん生しやう此し娑しや婆ば
國こく土どし來きたれり、見けん釈しや迦か牟む尼に仏ぶつを喜よろこばざらんや。
静しずかに憶おもうべし、正しやう法ぼう世よに流る布ふせざらん時ときは、
身しん命めいを正しやう法ぼうの為ために抛ほう捨しやせんことを願ねごうとも値お
うべからず、正しやう法ぼうに逢おう今こん日にちの吾われ等らを願ねごうべ
し、見みずや、仏ほとけの言のたまわく、無む上じやう菩ぼ提だいを演えん説ぜつす
る師しに値あわんには、種しゆ姓しやうを觀かんずること莫なかれ、
容よう顔がんを見みること莫なかれ、非ひを嫌きらうこと莫なかれ、行おこな
を考かんうること莫なかれ、但ただ般はん若にやを尊そん重じゆうするが故ゆえに、
日にち日にち三さん時じに礼らい拜はいし、恭く敬ぎやうして、更さらに患げん惱のうの心こころ
をしまうぜしむること莫なかれと。今いまのけん見ぶつ仏もん聞ぼう法ぼうはぶつ仏ぶつ
祖そ面めん面めんのぎやう行じ持じより來きたれる慈じ恩おんなり、仏ぶつ祖そ若もし
單たん伝でんせずば、奈い何かにしてか今こん日にちに至いたらん、一いつ
句くの恩おん尚なお報ほう謝しやすべし、一いつ法ぼうの恩おん尚なお報ほう謝しやす

べし、況や正法眼蔵無上大法の大恩これを報謝せざらんや、病雀尚お恩を忘れず三府の環能く報謝あり、窮亀尚お恩を忘れず、余の印能く報謝あり、畜類尚お恩を報ず、人類争か恩を知らざらん。其報謝は余外の法は中るべからず、唯当に日日の行持、其報謝の正道なるべし、謂ゆるの道理は日日の生命を等閑にせず、私に費さざらんと行持するなり。光陰は矢よりも迅かなり、身命は露よりも脆し、何れの善巧方便ありてか過ぎにし一日を復び還し得たる、徒らに百歳生けらんは恨むべき日々なり、悲むべき形骸なり、設い百歳の日月は声色の奴婢と馳走すとも、其中一日の行持を行取せば一生の百歳を行取するのみに非ず、百歳の佗生をも度取すべきなり、此一日の身命は尊ぶべき身命なり、貴ぶべき形骸なり、此行持あらん身心自からも愛すべし、自

からも敬うやまうべし、我等われらが行持ぎようじに依よりて諸しよ仏ぶつの
行持ぎようじ見成げんじやうし、諸しよ仏ぶつの大道だいでう通達つうだつするなり、然しかあ
れば即すなわち一日いちにちの行持ぎようじ是れ諸しよ仏ぶつの種子しゆしなり、諸しよ
仏ぶつの行持ぎようじなり。謂いわゆる諸しよ仏ぶつとは釈迦しやか牟尼むに仏ぶつな
り、釈迦しやか牟尼むに仏ぶつ是れ即そく心しん是ぜ仏ぶつなり、過か去こ現げん在ざい
未み來らいの諸しよ仏ぶつ、共ともに仏ぶつと成なる時ときは必かならず釈迦しやか牟尼むに
仏ぶつと成なるなり、是これ即そく心しん是ぜ仏ぶつなり、即そく心しん是ぜ仏ぶつ
というは誰たれというぞと審細しんさいに参究さんきゆうすべし、正まさ
に仏恩ぶつおんを報ほうずるにてあらん。